

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年7月13日

【四半期会計期間】 第124期第1四半期(自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)

【会社名】 株式会社井筒屋

【英訳名】 IZUTSUYA CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 影山 英雄

【本店の所在の場所】 北九州市小倉北区船場町1番1号

【電話番号】 (093)522-3111

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理・財務グループ長 細 迫 有 文

【最寄りの連絡場所】 北九州市小倉北区船場町1番1号

【電話番号】 (093)522-3111

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理・財務グループ長 細 迫 有 文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第123期 第1四半期 連結累計期間	第124期 第1四半期 連結累計期間	第123期
会計期間	自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日	自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日	自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日
売上高 (百万円)	19,052	18,852	78,304
経常利益 (百万円)	63	115	561
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	526	96	675
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	529	94	683
純資産額 (百万円)	9,967	10,216	10,121
総資産額 (百万円)	59,236	57,794	58,008
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	45.94	8.43	58.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	16.8	17.7	17.4

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行なわれておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間(平成30年3月1日～平成30年5月31日)におけるわが国経済は、政府による各種経済政策の効果により、企業収益や雇用環境の改善が続くなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。

百貨店業界におきましては、好天に恵まれた3月、4月は季節需要の高まりで春夏商材が活発に動いたことにより売上高は2ヵ月連続のプラスになりました。高額消費やインバウンドによる売上は引き続き高い伸びを示している一方で、国内市場は低迷が続いており、インバウンド効果の高い大都市では前年実績をクリアしたものの、地方都市では厳しい商況が続いております。

こうした状況の中、当社グループにおきましては、将来の成長を見据えた基礎固めとして「井筒屋グループ中期3ヵ年経営計画(平成28年度～平成30年度)」を推進いたしております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は18,852百万円(前年同期比98.9%)、営業利益は217百万円(前年同期比98.7%)、経常利益は115百万円(前年同期比181.7%)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は96百万円(前年同期比18.3%)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

百貨店業

当社グループの主要な事業であります百貨店業におきましては、「お客様第一主義」を基本とし、品揃えの強化を進め、販売サービスの向上をはかるとともに、ライフスタイルや商環境の変化への対応力強化に取り組んでおります。

本店におきましては、本館地階グロサリー売場のリニューアルや紫江'S(しこうず)1階にアウトドア総合ブランドの「モンベル」をオープンするなど、品揃えの充実とライフスタイルの変化に対応した売場づくりに努めてまいりました。また、初企画として全館で実施した「ビューティーウィーク」ではお客様の関心度の高いオーガニックコスメや健康食品の提案と合わせて、専門家によるトークショーやメイクアドバイスのイベントを実施するなど「モノ」と「コト」を融合させ、幅広い世代のお客様に大変ご好評をいただきました。ゴールデンウィーク期間中に開催した「北九州コーヒーフェスティバル」では、地元のカフェとのコラボレーションにより、参加型イベントやワークショップを実施して周辺の賑わい創出に力を注いでまいりました。

インバウンドへの対応といたしましては、3月よりスマホ決済アプリ「アリペイ」「ウィチャットペイ」を本店ならびに北九州空港店に導入し、中国からの訪日観光客の利便性を高めてまいりました。

4月に開店10周年を迎えたコレットにおきましては、アニバーサリーフェアを開催し、集客の向上に努めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は18,852百万円(前年同期比98.9%)、営業利益は270百万円(前年同期比100.5%)となりました。

友の会事業

友の会事業におきましては、株式会社井筒屋友の会が当社グループの百貨店に対して前払式の商品販売の取次を行っており、外部顧客に対する売上高はありません。業績につきましては、7百万円の営業損失（前期は3百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ214百万円減少し、57,794百万円となりました。これは主に建物及び構築物等が減少したことによるものであります。総資産のうち流動資産は12,660百万円、固定資産は45,134百万円であります。固定資産の主な内容は、有形固定資産39,323百万円、無形固定資産206百万円、投資その他の資産5,604百万円であります。

負債

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ308百万円減少し、47,578百万円となりました。うち、流動負債は30,051百万円、固定負債は17,526百万円であります。負債の主な内容は、借入金22,965百万円、前受金7,872百万円、支払手形及び買掛金6,542百万円、再評価に係る繰延税金負債2,874百万円であります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ94百万円増加し、10,216百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年7月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,480,495	11,480,495	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数は 100株で あります。
計	11,480,495	11,480,495		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年3月1日～ 平成30年5月31日		11,480		10,532		11,904

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,427,600	114,276	同上
単元未満株式	普通株式 29,795		同上
発行済株式総数	11,480,495		
総株主の議決権		114,276	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が600株(議決権6個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式87株が含まれております。
- 3 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成30年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社井筒屋	北九州市小倉北区船場町 1番1号	23,100		23,100	0.2
計		23,100		23,100	0.2

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けている新日本有限責任監査法人は、平成30年7月1日に名称変更し、EY新日本有限責任監査法人となりました。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,574	5,750
受取手形及び売掛金	1,676	2,141
有価証券	200	303
商品	3,277	3,424
貯蔵品	24	19
その他	784	1,035
貸倒引当金	14	14
流動資産合計	12,524	12,660
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,510	13,354
土地	25,276	25,276
その他（純額）	603	693
有形固定資産合計	39,390	39,323
無形固定資産	222	206
投資その他の資産		
差入保証金	3,749	3,745
その他	2,307	2,047
貸倒引当金	186	188
投資その他の資産合計	5,870	5,604
固定資産合計	45,484	45,134
資産合計	58,008	57,794

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,226	6,542
短期借入金	11,333	11,333
未払法人税等	277	51
前受金	8,013	7,872
その他の引当金	322	411
その他	3,837	3,839
流動負債合計	30,011	30,051
固定負債		
長期借入金	11,965	11,631
再評価に係る繰延税金負債	2,874	2,874
商品券回収損失引当金	748	744
退職給付に係る負債	1,132	1,103
資産除去債務	479	481
その他	676	691
固定負債合計	17,875	17,526
負債合計	47,887	47,578
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,532	10,532
資本剰余金	11,904	11,904
利益剰余金	18,012	17,915
自己株式	27	27
株主資本合計	4,396	4,493
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27	26
土地再評価差額金	5,766	5,766
退職給付に係る調整累計額	69	70
その他の包括利益累計額合計	5,724	5,722
純資産合計	10,121	10,216
負債純資産合計	58,008	57,794

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
売上高	19,052	18,852
売上原価	14,481	14,405
売上総利益	4,571	4,447
販売費及び一般管理費	4,350	4,229
営業利益	220	217
営業外収益		
受取利息	3	2
持分法による投資利益	21	50
協賛金収入	3	8
未回収商品券受入益	66	68
受取賃貸料	16	17
その他	36	35
営業外収益合計	148	183
営業外費用		
支払利息	122	112
売上割引	95	96
商品券回収損失引当金繰入額	47	43
地代家賃	1	1
その他	39	30
営業外費用合計	305	285
経常利益	63	115
特別利益		
固定資産売却益	128	
事業譲渡益	30	
特別利益合計	158	
特別損失		
固定資産除却損	5	16
特別損失合計	5	16
税金等調整前四半期純利益	216	99
法人税、住民税及び事業税	82	9
法人税等調整額	392	6
法人税等合計	309	2
四半期純利益	526	96
親会社株主に帰属する四半期純利益	526	96

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	526	96
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	2
退職給付に係る調整額	0	0
持分法適用会社に対する持分相当額	5	1
その他の包括利益合計	2	1
四半期包括利益	529	94
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	529	94
非支配株主に係る四半期包括利益		

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)
減価償却費	395百万円	361百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年3月1日 至 平成30年5月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	百貨店業	友の会事業		
売上高				
外部顧客への売上高	19,052			19,052
セグメント間の内部売上高 又は振替高		172		172
計	19,052	172		19,225
セグメント利益又は損失()	268	3		264

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報サービス事業を含んでおりません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	264
セグメント間取引消去	44
四半期連結損益計算書の営業利益	220

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年3月1日至平成30年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	百貨店業	友の会事業		
売上高				
外部顧客への売上高	18,852			18,852
セグメント間の内部売上高 又は振替高		169		169
計	18,852	169		19,022
セグメント利益又は損失()	270	7		262

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報サービス事業を含んでおりません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	262
セグメント間取引消去	44
四半期連結損益計算書の営業利益	217

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	45円94銭	8円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	526	96
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	526	96
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,457	11,457

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年7月13日

株式会社 井筒屋
取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 一 昭 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久保 英 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社井筒屋の平成30年3月1日から平成31年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社井筒屋及び連結子会社の平成30年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。